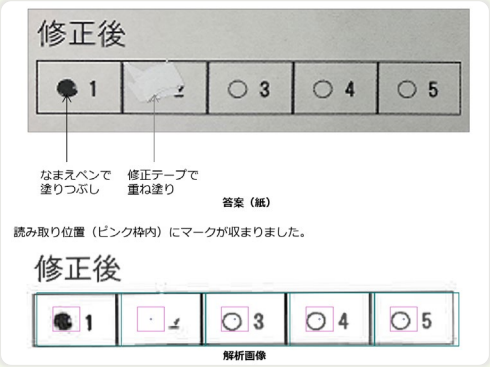
CASE STUDY

学校法人 京都国際学園 京都国際中学高等学校

「違い」を力に。“多様性”を受けいれる評価の実現

本校は、「真の国際人育成」を目ざす、韓国と日本の両国から認められた国際学校です。教員と生徒は多様な国籍・文化・背景を持つため、日本語・韓国語・英語を使います。クラブ活動も盛んで、2024年夏には、硬式野球部が甲子園で優勝。学力だけでなく、人間力を育む指導を実践しています。多言語・多文化があたりまえの本校では、その「違い」を受けいれ、むしろ強みに変えることで、個別に最適化された、適正かつ公正な成績管理に取り組んでいます。2024年度から整備を開始。2025年度から、自動採点の活用・評価の根拠も示せる組織編成を準備しています。そして、教員のICTリテラシーにも配慮して進めています。

01 試行錯誤の1年：小さな成功の積み上げ



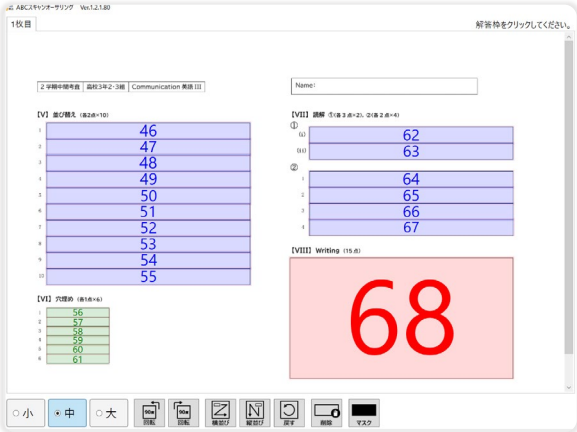
2024年度、韓国から就任された校長は、夜まで手採点している教員を目の当たりにして、「マークシートでの自動採点を導入して教員全体の負担を減らしたい」と、「2025年から全教員が採点・集計ソフトで採点する」 という目標をかかげ、ICT化推進が始まりました。一方「マークシートだけでは試験にならない」「解答用紙の作成が面倒」などの反対意見が大多数を占めていました。同年のICT担当者は、反対意見をバネに、各教員が抵抗感なく受け入れられるよう、画一化を避けた柔軟な導入プロセスを進める方向へ舵を切ります。マークの濃さに関する誤認識予防のため、ボールペンと修正テープでの解答を試行錯誤し、失敗も経験しながら実績を積み上げ、約1年弱をかけて、各教員が慣れ親しんだ評価スタイルを尊重しつつ、ABC-Zをカスタムするという方法で、校務効率化を図ったのです。

point

- **ICT担当者の試行錯誤・実績の積上げ**
- **教員視点での運用方法の模索・ツールカスタマイズ**
- **各教員既存の知識を有効活用する**

観点別採点の基準が設けられ、成績管理委員会の編成が達成される 02

「多様な教員方が、自然に、自分らしくICTを取り入れられる」こと、「観点別採点の負担を減らしながら、具体的な根拠を示せること」に重点を置き、自動採点は少しずつ受けいれられ、2025年度からは成績管理委員会の編成に至りました。これは、自動採点と基準設定の、どちらを欠いても実現困難でした。マークシートに加え、各教員が従来から使っていた解答用紙をそのまま使える「スキャンPDFオーサリング」の活用で、使い方や活用度合いを教員ごとに自由に選べるようにしました。また、解答用紙のテンプレートも作成、ICT導入に伴うストレスや心理的ハードルを下げることにより利用促進し、明確な根拠に基づく採点ができるような環境づくりをしています。



研修の一コマ

The officer's voice

多様な解答用紙の形式に合うABC-Z設定を、各教員が選ぶ

本校では、生徒が日本語・韓国語を必要とする場合は、両方の言語でテストを作成しています。帰国子女がいる場合は、ふりがなを使うように配慮しています。
「マークシートと従来の解答用紙のどちらを選んでも、教員が採点対象の設定に手間を感じないように、ABCZ-側で採点対象の設定を簡略化してもらいました」（ICT担当者）
「私は、マークシートを使わず、従来の解答用紙をそのまま使える“スキャンPDFオーサリング”で採点対象を設定しています。採点効率というよりは、採点画面で（記述式）の解答欄を一覧に並べて、テストの振り返り、得点の評価の分類を出せることに魅力を感じています」（社会科 教諭）

03 教員・生徒に生まれた好循環

諸外国では、試験での筆記具にボールペン・マジック・万年筆などを用い、簡単に自分の解答を修正できないようにしており、それが判断や決断力を育むとされています。国際性を重んじる本校では、ABC-Z導入を機に一部のテストにおいてボールペン解答方式を採るようにしました。生徒はボールペンで解答したことがなく、戸惑っている様子が見受けられましたが、鉛筆で下書きしてからボールペンで清書する方法で浸透しました。結果的に、自動採点の採用後には、「テスト対策が効率的にできるようになった」と感じる生徒も多いようです。また教員側からの、「設問設計をした上で授業展開を考えるようになった」、「正答率の低い問題の傾向がつかめるようになり、効率的な振り返りができる」といった声に、教育の質の向上が伺えます。

採点業務の効率化による派生効果としての教育技術向上 04

教員一人一人のABC-Zの使い方が違っても、テスト問題や解答用紙を共有できるプラットフォームができました。答案返却については、原本を返却せず、ABC-Zで採点された解答用紙データを印刷して生徒に返却できるようになったため、教員が不正防止対策をしなくてよくなり、答案返却について、精神面で負担が少なくなりました。
こうした業務効率化にともない、これからABC-Zを使い始める教員がそのプラットフォーム上のデータを共通言語として、作問技術をお互いに磨いていくことも考えられます。さらに、成績管理委員会が成績評価を管理し、教科主任がテスト問題の質や評価の仕方をチェックしていく体制も可能になります。属人的だった作問・採点及び評価の仕方が、学校全体で一定の質を保ちながら、教員や生徒の多様なスタイルに対応できる教育環境へさらに進化していくと思います。

取材協力：学校法人 京都国際学園 京都国際中学高等学校

Zetta ゼッタリンクス株式会社
https://www.zettalinx.co.jp/
〒116-0013 （東京本社、大阪、福岡、仙台）
東京都荒川区西日暮里5-14-4 KYビル5階/6階
TEL. 03-5615-3761　FAX. 03-5615-3762

ABC製品サイト

お問い合わせはこちら、

● Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。
● 記載されている法人名、団体名および商品名などは、一般に商標または登録商標です。